

胃がん検診精度管理委員会

担当理事：渋谷大助

委員：石川 勉、一瀬雅夫、伊藤高広、入口陽介、北川晋二、戸堀文雄、長浜隆司、春間 賢、細川 治、水口昌伸

委員会開催：2回（うち1回持ち回り）

1. 偶発症調査について

- ・平成26年度胃がん検診偶発症アンケート調査を実施し、集計結果を機関誌55巻1号委員会報告に掲載した。
- ・平成27年度全国集計Web化に伴い、胃がん検診偶発症アンケート調査もWeb化となるが調査内容の変更はない。

2. 胃X線読影講習会について

第5回胃X線読影講習会プログラム（平成28年6月11日鹿児島）について報告された。参加者49名。

3. 対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル

厚生労働科学特別研究事業として深尾理事長を班長に「対策型検診のために胃内視鏡検診マニュアル2015年版」を学会で作成した。冊子版は6,000部印刷し、市町村、本学会理事・代議員、本学会55回総会、消化器内視鏡学会92回総会で配布した。なお、事例・用語解説などを追加した形で南江堂から2017年2月に市販書籍化された。

4. 「胃X線検診のための読影判定区分アトラス」について

機関誌54巻1号委員会報告に掲載された「胃X線検診のための読影判定区分」に豊富な画像とカテゴリーごとの症例と解説を加えた「胃X線検診のための読影判定区分アトラス」を附置研究会（胃X線検診のための読影判定区分の運用・評価に関する研究会）と共同で作成した。2017年の第56回総会（つくば）前に南光堂より出版予定である。

5. 認定医と胃がん検診専門技師について

- ・認定医と胃がん検診専門技師の近年の取得状況について報告がされた。
- ・「対策型検診のために胃内視鏡検診マニュアル2015年版」では検査医の資格として、本学会認定医、消化器内視鏡学会専門医、消化器病学会専門医のいずれかの資格を有することになっている。消化器内視鏡学会、消化器病学会の専門医取得は指導施設での研修が必要になるため開業医や大学に所属しない勤務医は取得が難しい。そのような先生が本学会認定医取得を希望する可能性があるのではないか。
- ・胃がん検診専門技師はNP0検定試験合格者で本学会専門技師認定を取得するのは2/3くらいである。また更新率は例年6割台と低いが平成28年10月8日（土）に第1回胃がん検診専門技師研修が開催されるので更新率が改善されることを期待したい。

6. その他

- ・胃がん内視鏡検診の精度管理を本委員会が担うべきではないか。
- ・会員増加には内視鏡医を取り込むべきではないか。